

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑯ 実用新案出願公開

## ⑰ 公開実用新案公報 (U)

昭55—15231

⑯ Int. Cl.<sup>3</sup>  
D 04 D 11/00識別記号 庁内整理番号  
7425—4 L

⑯ 公開 昭和55年(1980)1月31日

審査請求 有

(全 4 頁)

## ④紐通し具

②実願 昭53—97141  
②出願 昭53(1978)7月13日  
②考案者 松岡修造

大阪市阿倍野区晴明通9番35号

⑦出願人 松岡修造  
大阪市阿倍野区晴明通9番35号

⑧代理人 弁理士 小谷悦司

## ⑤実用新案登録請求の範囲

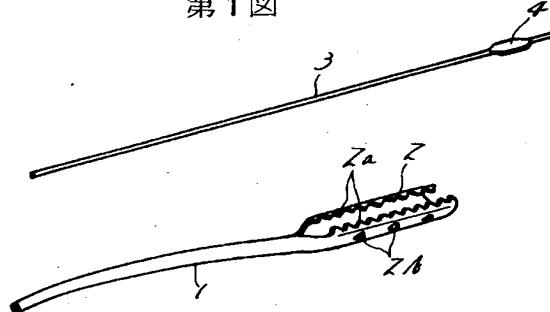
後端部に紐止め付け部を有する中空ピン状の紐通し具本体と、サポートピンとからなり、このサポートピンを上記本体に、該本体先端部から突出する状態で長さ方向にスライド自在に嵌入させてなることを特徴とする紐通し具。

## 図面の簡単な説明

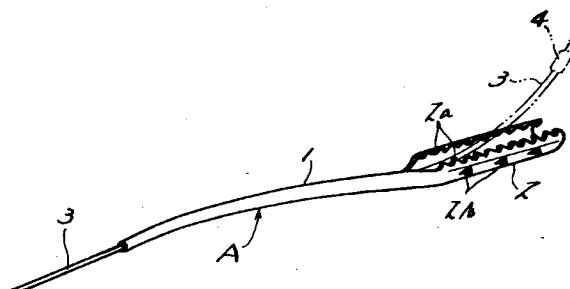
図は本考案の実施例を示し、第1図は分解斜視図、第2図はサポートピン装着状態の斜視図、第3図は紐取付状態の斜視図、第4図は同断面図、第5図および第6図は使用状態を示す斜視図である。

1……紐通し具本体、2……紐止め付け部、3……サポートピン、B……紐。

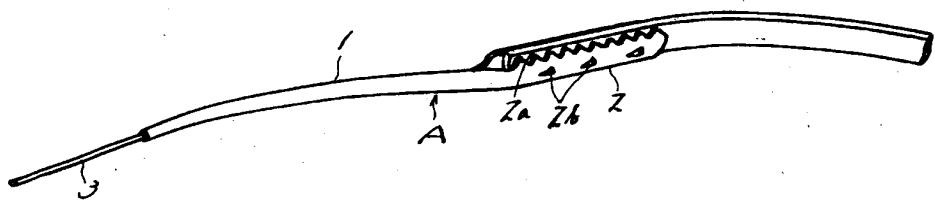
第1図



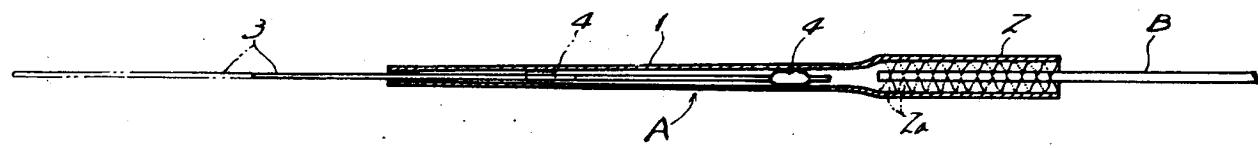
第2図



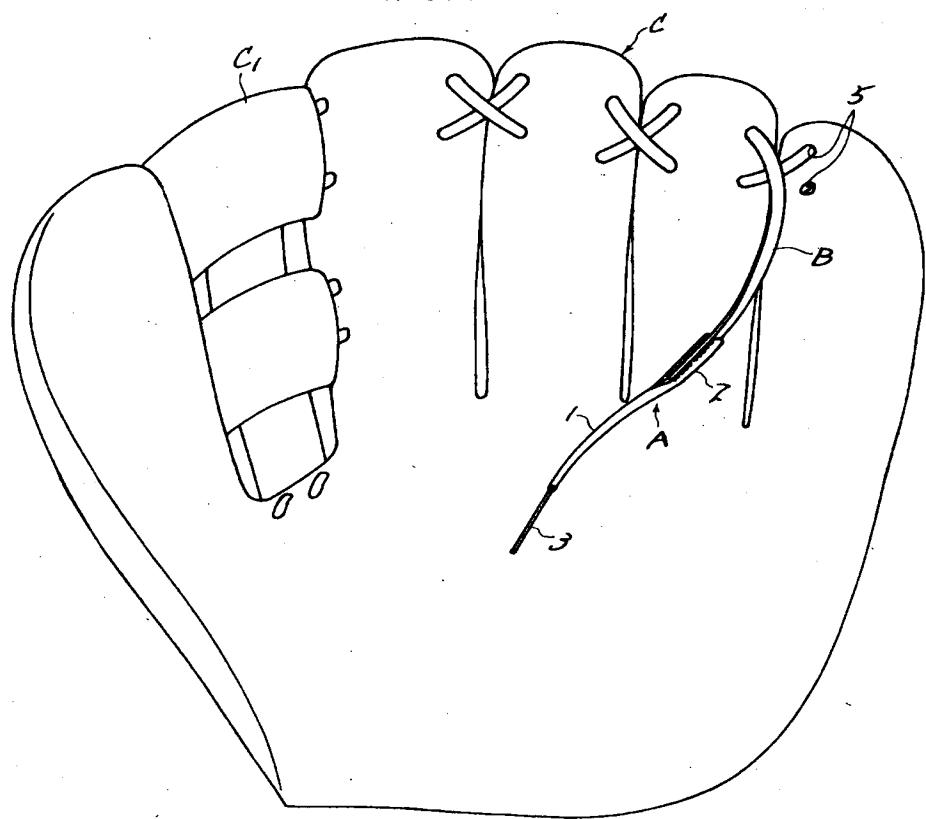
第3図



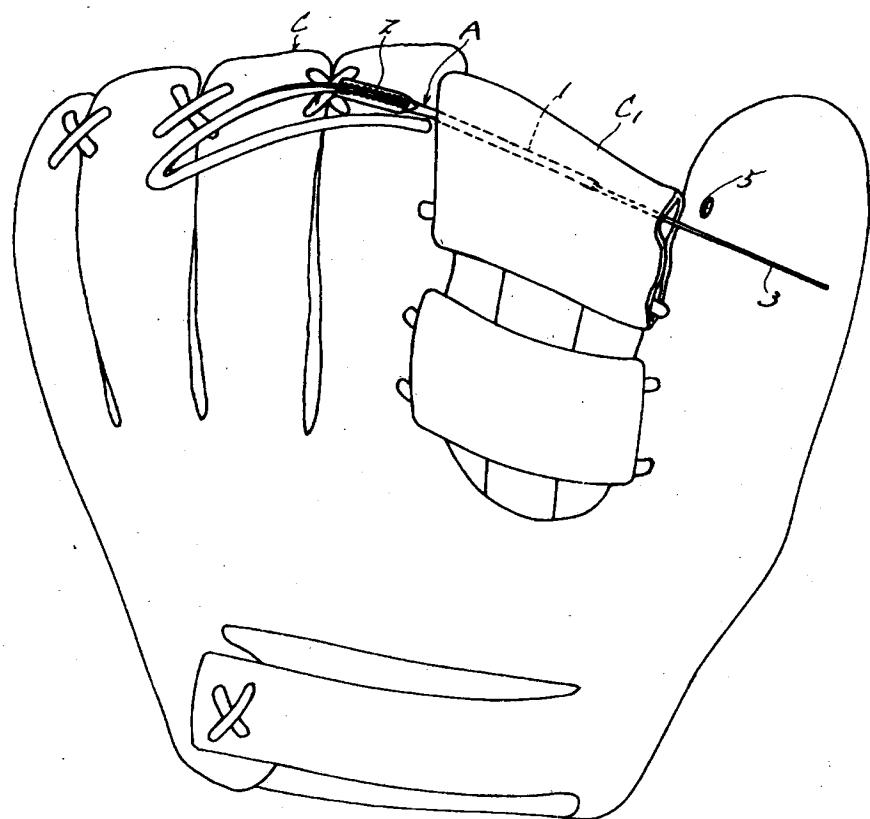
第4図



第5図



第6図





請

通

## 実用新案登録願

昭和53年7月13日

特許庁長官 熊谷 善二 殿

### 1. 考案の名称

ヒモ トオ し 真 紐 通 し 真

### 2. 考案者

住 所 実用新案登録出願人と同じ  
氏 名

### 3. 実用新案登録出願人

住 所 大阪市阿倍野区晴明通9番35号  
氏 名 マツ オカ シュウ ゴウ

### 4. 代理人

住 所 〒550 大阪市西区西本町1丁目10番3号 新松岡ビル  
氏 名 (6782) 弁理士 小谷 悅司

電話 06 (541) 2281 (538) 0071番

### 5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1通	(2) 図面	1通
(3) 願書副本	53.7.15	(4) 委任状	1通
(5) 出願審査請求書	第二回 大畠	通	55-15231



53 097141

方 式 査  
事 業



## 明細書

### 1. 考案の名称 細通し具

### 2. 実用新案登録請求の範囲

1. 後端部に紐止め付け部を有する中空ピン状の細通し具本体と、サポートピンとからなり、このサポートピンを上記本体に、該本体先端部から突出する状態で長さ方向にスライド自在に嵌入させてなることを特徴とする細通し具。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案はグラブ等の革製品その他において紐を製品の孔にさし通す場合に使用される細通し具に関するもので、奥行の深い孔にも紐を簡単に能率良く通すことができ、しかも、孔の深さ等に応じて自由に伸縮調節できる細通し具を得んとするものであり、その構成は次の通りである。

本考案は、後端部に紐止め付け部を有する中空ピン状の細通し具本体と、サポートピンとからなり、このサポートピンを上記本体に、該本体先端部から突出する状態で長さ方向にスライド自在に嵌入させてなることを特徴とする細通し具である。

以下、本考案の実施例を図に依拠して説明する。

1は紐通し具本体で、金属帯板をチューブ状に曲げ加工することによって中空ピン状に形成し、後端部のみ極状に開放させて紐止め付け部2を形成している。この紐止め付け部2は開放縁部が歯状に形成<sup>2a</sup>され、かつ、両側面部内側に突起<sup>2b</sup>…が膨出形成されている。こうすることにより該紐止め付け部2に紐を確固と止め付け得るようにしている。3はサポートピンで、後端部を扁平に圧縮して抜け止め部4を形成している。このサポートピン3を、本体1の先端から突出する状態で該本体1の内空部に長さ方向にスライド自在に嵌入させることによって、本考案にかかる紐通し具Aが構成される。この紐通し具Aにおいては、サポートピン3を本体1の先端側に引き出したり押しこんだりすることによって、全体長さを自由に調節できるものである。

なお、本体1の先端部を若干細く絞つており、この先端部内面にサポートピン3の抜け止め部4が引っ掛かることによって該ピン3が抜け止めさ

れる。また、サポートピン③のスライドに対して適度の拘束力を作用させるために、本体①を若干彎曲させてピン③に一定の摩擦抵抗を与えている。サポートピン③の素材としては剛体的なものを使用してもよいが、適度の柔軟性をもつたものを使用するのか望ましい。こうすれば、該ピン③が孔の曲がりに応じて彎曲して本体①をスムーズに先導し、また、本体①を孔から引き出す際に抵抗があつても、ピン③の端を折り曲げて強く引っ張ることができる等の便益がある。

この縫通し具Aは、野球用のグラブにおける各指結着用の縫の取替え時や、自動車ハンドルカバーの装着時等種々の分野において革製品その他に設けられた孔に縫を通す場合に便利に使用することができる。使用に際しては、第3、4図に示すように、縫Bの先端部を縫止め付け部2に挿入した状態で該縫止め付け部2をペンチ、金槌等で圧縮して、縫先端部を縫止め付け部2に圧着固定する。このとき、歯状部2aが縫先端部に両側から噛み込み、かつ、突起2b…が同縫に圧接すること

とによって、紐Bが紐止め付け部2に非常に強固に固定され、作業中、紐Bに相当強い引っ張り力が加わっても、これが紐通し具Aから外れるようなおそれがない。

この状態で紐通し具Aを、たとえばグラブCの各指に設けられた孔5…に順次さし通していけばよい。こうして、紐Bを孔5…に簡単に能率良く通すことができる。とくに、このグラブCの指孔5…のように比較的奥行の深い孔でも、この紐通し具Aを使用することによって紐Bをスムーズに通すことができる。また、孔が小さい場合、あるいは製品素材の復元力によって孔が塞がれ気味になつている場合にも、サポートピン3が本体1を先導することによって楽に通すことができる。その上、サポートピン3を出し入れすることによつて全体長さを自由に伸縮調節できるから、この紐通し具Aを、孔の深さに応じて適正な長さで使用することができる。たとえば、グラブCのウエップ部分C<sub>1</sub>に紐Bを通すときには、サポートピン3を引き延ばして紐通し具Aを伸長させることによ

り、相当奥行の深いこのウェップ部分C<sub>1</sub>にも紐通し具Aを楽に通すことができる。また、通常の指孔5…に対しては、サポートピン3を引っ込んで全体長さを短縮させれば、紐通し具Aの小回りが効き、能率がよいとともに、紐通し具Aの長さ分だけ必要な紐Bの余り代が短くてすむ。

紐通し作業が終った後は、紐Bを紐通し具Aの手前で切断し、その終端部を適宜結束すればよい。この紐通し具Aは低コストで製作でき、従つて安価で提供できるため、使い捨てにできるが、使用後、止め付け部2をペンチ等で再び開放させて反復使用することもできる。

上記のように本考案の紐通し具によれば、革製品その他のにおいて紐を孔に簡単に通すことができ、とくに比較的奥行の深い孔への紐通し作業を能率良く行なうことができる。しかも、サポートピンを出し入れすることによって全長を自由に伸縮調節できるため、この紐通し具を孔の深さに応じて適切な長さとして一層便利に使用することができる。また、サポートピンの採用によって、小さな

孔や製品素材の復元力によって塞がれ気味の孔等にも楽にさし通すことができる等、実用上きわめて有益なものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

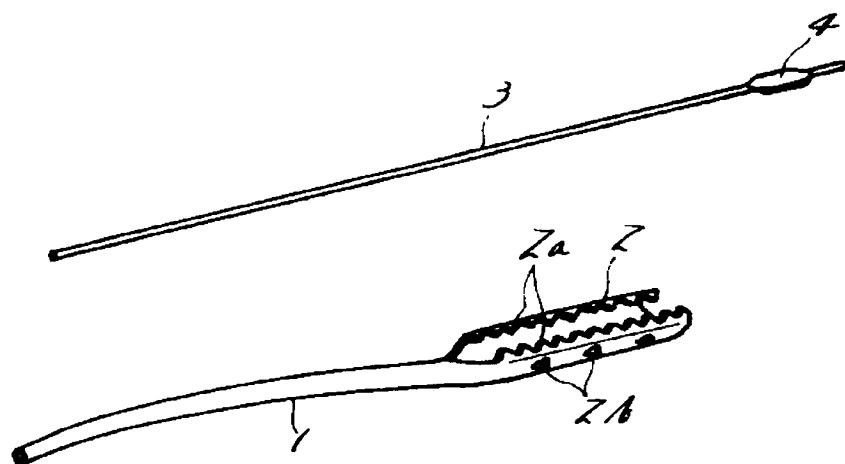
図は本考案の実施例を示し、第1図は分解斜視図、第2図はサポートピン装着状態の斜視図、第3図は縫取付状態の斜視図、第4図は同断面図、第5図および第6図は使用状態を示す斜視図である。

1………縫通し具本体、2………縫止め付け部、3  
………サポートピン、B………縫。

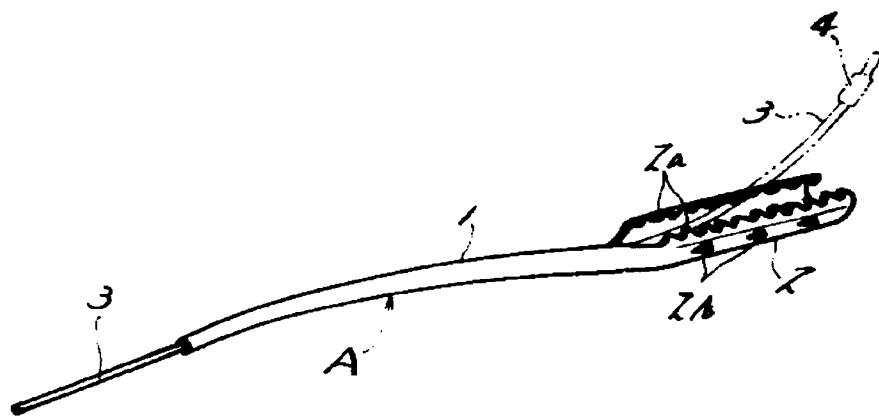
実用新案登録出願人 松 岡 修 造

代理人 弁理士 小 谷 悅 司

第 1 図



第 2 図



15231  
1/4

代理人 弁理士 小谷悦司



図3

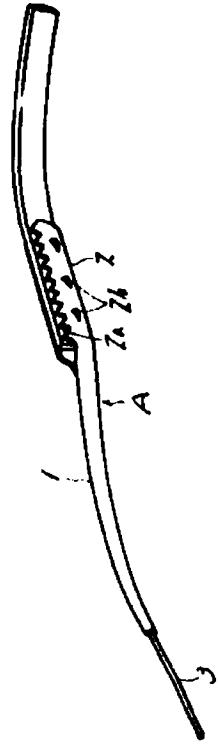
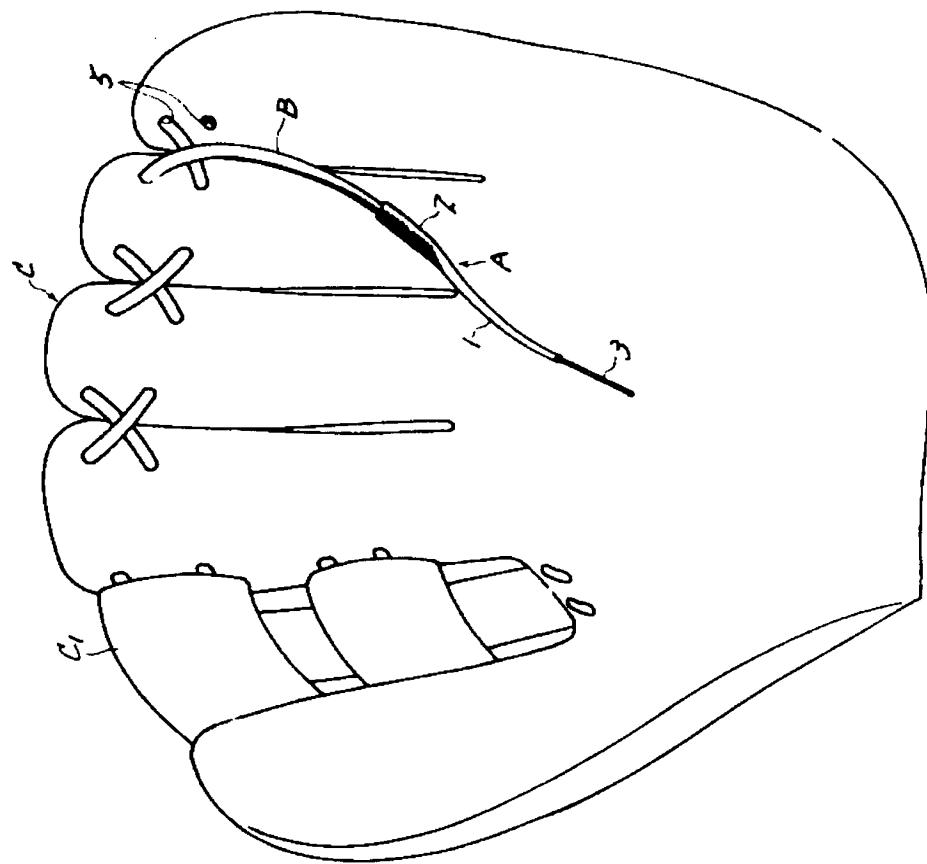


図4



5



5

代理人 特許士 小谷悦司

第6図

